

入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
<p>■学力検査: 3/3(木)</p> <p>■面接・特色検査: 3/4(金)</p>	2/16(火) ~18(木)	3/15(火)	主に、3年生の2学期(後期)の調査書(内申点)が評価対象。

教育のプロ
トライさん



傾向

- 一般選抜には、各学校が独自に定め合否を判定する「学校裁量枠」と、県共通の選抜方法の「共通枠」が設定されています。
- 「学校裁量枠」の定員は原則として募集定員の50%を上限に学校・学校別に設定され、事前に公表されます。合格判定は調査書、学力検査、面接の結果を基に行われ、重視される基準は学校・学科別によって異なり、高校・学科によっては学校独自の検査(実技検査、作文、適応力検査)を加える場合もあります。
- 「共通枠」は、「学校裁量枠」の合格者を除いたすべての受験者を対象に行われる。**内申点がとても重要視**されます。

①内申点を受験生の上位から並べ、募集定員内に入っている事⇒②当日の筆記試験が募集定員の75%に入っている事。内申点確保が必須です。

科目別対策

英 語

例年、リスニング・対話文・英作文・長文読解という出題形式。英作文の配点は約10点分あり、難易度は高く、与えられた日本語文をそのまま英文に直そうとしてはいけない。文意をしっかりとらえ、慣用表現をどう使えるかが勝負。最低限の慣用句は覚えよう。読解問題の英文の難易度は平均的であり、読みやすい。しかし、英文を細かく訳さなければ、正確な解答を出せない場合もあるため注意が必要。

数 学

昨年度より大問6問で構成。図形の証明と関数は必ず出題され、両問とも難易度は高めである。証明は図形の総合的な知識が必要。関数は図形に関する知識を要する設問もある。「数と式」と「方程式」の分野は教科書問題を繰り返し練習し、正確な処理ができるようにしておくこと。出題形式に多少の変化は見られるものの、全体の傾向は変わらないため、過去問演習を十分すること。

国 語

例年、漢字・文章題・課題作文という出題形式。記述問題が多く、60字程度で記述させるものや、正しい表現に直すものがある。180字程度の課題作文は減点法なので、段落構成や誤字脱字に最大限の注意を払うこと。ことばの知識に関しては、漢字の表す意味や慣用句・敬語・動詞の活用がよく出題されるので、過去問題でしっかりと傾向を知り、その対策をすること。

理 科

記号選択が約35%、論述式の問題が約25%で、語句や数値を答える問題が多い。実験や観察の結果について考察させる問題、グラフ化させる問題、得られた数値を利用して結果を考える問題等、原理を問う傾向が強い。重要語句や重要事項、計算問題は、理論立てて活用できるようにしておく。特に実験の意味と結果を押さえておき、それを応用して法則性を導く思考力を身につけたい。

社 会

大問4問で構成。全体的に論述形式の問題が多いのが特徴で、問題全体の約25%を占め、配点は約40%に及ぶ。語句記述式の問題はいずれも基本的内容であるため、合否を左右するポイントはこの論述問題である。60~80字程度で答えさせる問題が例年出題おり、解答条件に注意しながら、資料から読み取れることを書く考察力と表現力が必要である。